

活動を継続します

公園整備や学校統合の是非も課題

地域の喫緊の課題でした大谷海岸の防潮堤建設工事が着工し、いよいよ大谷地区の復興が本格化します。里海づくり検討委員会の活動も一区切りついたといえますが、背後地の公園などの課題がまだ、残されています。さらには今後は中学校統合の是非も問われてくるのが予想され、避けて通れない地域課題と考えます。私たちは地域の一員として、新年度も活動を続けていきます。

大谷里海づくり検討委員会は、2014年9月、震災後の大谷の復興、将来世代が抱える問題を見据えながら海、山、里を大切に作るまちづくりを考えようと、若手有志が主体となって設立しました。喫緊の課題であった防潮堤問題を中心とした大谷海岸周辺の整備についてこれまで取り組んできました。

地域のみなさんとともに、砂浜の確保、国道とその背後地のかさ上げを求めてきました。すべてに満足するものではありませんが、気仙沼市や宮城県、国の理解を得て、去る1月20日には一連の工事の着工を迎えることができました。あらためてみなさまに感謝申し上げます。

これで委員会活動は、一区切りついたと思いますが、背後地の公園整備（旧石田屋さん付近）の検討が残されています。また、小学校と活動継続中の海浜植物の再生のほか、防潮堤工事の詳細な詰めなど、取り組まなければならない課



題はまだ、残されています。

大谷海岸を中心にしたにぎわいづくりは、具体的に何をどうしたら地域振興が図られるかを、考えることが大切と考えております。さらには現在、気仙沼市が進めていきます大谷中学校の統合の是非が、今後問われてくることと予想され、議論が本格化してくると思われれます。

よって私たち検討委員会は、微力ながら活動を継続し、これからの課題や新たな課題について、新年度も勉強を続けていきたいと考えております。地域のみなさまには、今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

なお本年度も検討委員会の開催をはじめ、ハマヒルガオ、ハマエンドウ、ハマボウフウなど海浜植物の種を採取し、大谷小学校緑化委員会の子どもたちとの種まき、大谷海岸花火まつりへの協力、出店などの活動を行ってきました。



大谷里海づくり検討委員会とNPO法人浜わらすが、子どもたちを少しでも海に近づけたいという思いで、震災後に催してきた砂の造形大会は昨夏、小学校が震災前同様に、学校行事として実施することになり、里海づくり検討委員会と浜わらすは、後方支援という形でお手伝いさせていただきました。

当日は砂浜清掃の後、子どもたちは「カメ」「ホヤぼーや」などを作り、楽しいひと時を過ごしました。児童の一人がつぶやいた「海っていいな」が、すべてを物語っているように思います。里海づくり検討委員会としては、学校行事につなぎ、復活したことで一定の目的が達成されたと考えています。これまで協力いただいたみなさんに感謝します。



委員を募集します

委員会は結成以来、若干の委員の変更がありました。充て職などが変わってしまいましたが、そのままの状態になっておりましたことをお詫びします。活動に一区切りが付き、新年度を迎えるにあたり、現委員の継続の確認とともに、あらためて振興会など各団体からの推薦や一般公募による委員を募集したいと思っております。

現委員に関しては、引き続き委員として活動の有無を事務局までメール、ライン、電話で連絡ください。振興会、各団体からの推薦にしましては別紙用紙により、お願いします。一般公募に關しても別紙要領で募集しますので、重ねてよろしく申し上げます。

■ 現役員

役員体制が一部変わりましたのでお知らせします。

- ▽会長—村田 興
- ▽副会長—芳賀 孝司 小野寺 英彦
- ▽幹事—佐藤 健 高橋 弘則 只野 芳江 畠山 友美子
- ▽監事—加藤 幸一郎 及川 正和
- ▽会計—福岡 大祐
- ▽事務局—三浦 友幸

会長 村田 興より

「前会長芳賀から里海づくりのタスキを引き継ぐ事になりました。改めて、責任の重さを痛感しているところではございますが、「まちづくりは人づくり」をモットーに、活動して参ります。今後共、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。」

※裏面もご覧ください

大谷里海づくり検討委員会

Web : oyakaigan.com

問合せ : oyamachidukuri@gmail.com

「これからの大谷」

大谷小6年 福岡加彩

平成23年3月11日、東日本大震災が起きたとき、私は大谷幼稚園の年中でした。突然大きな地震が起きて怖かったこと、みんなで必死に逃げて、先生たちも私たちを必死に守ろうとしてくれていたことを今でも覚えています。

その頃、幼稚園は小学校のすぐ裏側にありましたが、津波で全壊してしまいました。私たちが年長になる時、大谷小学校の教室を間借りして幼稚園が再開しました。小学校の校庭には仮設住宅が建ちました。震災後、7年目を迎えるようとしている今、ようやく仮設住宅の撤去が終わり、校庭の復旧工事が進んでいます。大谷小学校の校舎から『青い大谷の海』が見えるようになりました。

私が生まれた頃は仙台に住んでいましたが、3歳の時に父の実家がある、この大谷のまちに帰ってきました。父も母も、気仙沼が大好きでした。そして、この大谷が大好きで、子育てをするならこの大谷だと思っていたからだと思います。

私が震災前の大谷で覚えているのは、駅の大きな水槽にマンボウがいたこと、レストランがあったこと、そして海と砂浜がきれいだったことくらいです。でも家族から、私が小さい頃、夏には海に行つて遊んでいたこと、小学校では、毎年砂の造形大会が行われていたこと、大谷海岸駅は日本一海水浴場に近い駅だった

こと、駅から見える松林の向こうに海水浴場があり、夏にはたくさんの方が海水浴に訪れていたことなど、たくさんのお話を聞きました。

しかし、今は海の近くの道路を通つても、そこから見えるのは大きな黒い壁や、背の高くない雑草、高く盛られた土の山。この風景が当たり前になってしまった私は、以前の風景を思い出すことはほとんどできません。

でも、学校の授業で地域の方々から大谷のことや海のことについてお話を聞く機会がありました。大谷の復興のために活動してくれている方々がいることや、大谷の海とともに生きる漁師さんの想いや苦労を知り、大谷と海についてこれまで以上に深く考えるようになりました。大谷の方々は今昔から海と仲良くつきあってきました。時に怖い顔を見せる海ですが、私たちにとってかけがえのないものです。漁師さんの「海を嫌いにならないで」という言葉が心に響きました。

去年の夏、大谷小学校では地域の方々の協力をいただき、砂の造形大会が復活しました。地域の方々に見守られながら、全校のみんなと砂浜で遊ぶことができ、とても楽しかったです。私の周りの大谷の方々は大谷のまちが大好きで、大谷を守りたいという想いを持ち、大谷のすばらしさをいつも教えてくれます。大谷の象徴である大谷海岸も、昔からみんなが大切にしてきた場所です。この砂浜を守りながら、新しい道路が作られると聞きました。とても嬉しいです。新しい道路ができると、大谷は生まれ変わ



大谷海岸で海浜植物の採取 (H29.8.27-28)



大谷小学校 砂の造形大会 (H29.7.14)



大谷海岸花火大会での出店 (H29.9.9)



大谷小学校での海浜植物の種まき (H29.11.2)



大谷海岸のまちづくりに関する説明会 資料 (H29.7.25) 提供 気仙沼市



福岡加彩さんのあいさつは、1月20日に行われた大谷海岸地区復興事業着工式で、「大谷の明るい未来の言葉」として、出席者を前に発表しました。

そして、これからできる新しい大谷海岸を、今度は私たちが守っていきたいと思います。